

## 試験研究成果普及情報

部門	漁場環境・生産基盤	対象	普及・行政
課題名：簡易なアマモ増殖技術の開発			
〔要約〕アマモ場の造成を行う際に、沖合いで船上から行える簡易な移植手法を開発した。この方法で移植を行った結果、株数が2～10倍程度に増殖することが確認され、徒歩で入れない深い場所でも、簡易で安定した移植が可能になった。			
キーワード アマモ 造成 移植			
実施機関名	主 査	漁場環境研究室	
	協力機関		
実施期間	2006年度～2008年度		

## 〔目的及び背景〕

東京湾では、かつて広い範囲にアマモ場が分布していたが、埋立てや水質悪化により減少した。アマモ場の再生を図るに当たり、株の移植を実施するには、徒歩で入れる浅場で行うか、深い場所では潜水作業や船上から移植を行うための装置が必要とされていた。このため、簡便で広範囲に移植を行える手法を開発した。

## 〔成果内容〕

- 1 アマモ株を移植する際に、船上からアクリル管（口径45mm、長さ2～3m）を使用して移植株を海底に植えつける方法で実施したところ（図1）、作業船1隻当たり1時間に250～500本程度の植え付けが可能で実用性が高いものと考えられた。
- 2 海底が硬い場合には、管の先を海底に強く突刺したり、棒などで突いて柔らかくすることにより安定した植え付けが可能であった。
- 3 この方法で10月に移植を行った場合、翌春以降10倍程度に増殖し（図2）、潜水作業による移植と同等以上の効果が見られた。また、11月移植の場合でも2倍程度に増殖することが確認された（図3）。
- 4 この方法により、徒歩で入れない深い場所でも、簡易な作業で安定した移植が可能になった。

## 〔留意事項〕

- 1 移植時には、事前にアマモの採取作業及び株の基部への紙粘土を巻き付ける作業が必要である。
- 2 移植先の環境によっては、越夏できない場合がある。

## 〔普及対象地域〕

内湾，内房地域

[行政上の措置]

[普及状況]

三番瀬漁場再生検討委員会で報告

[成果の概要]

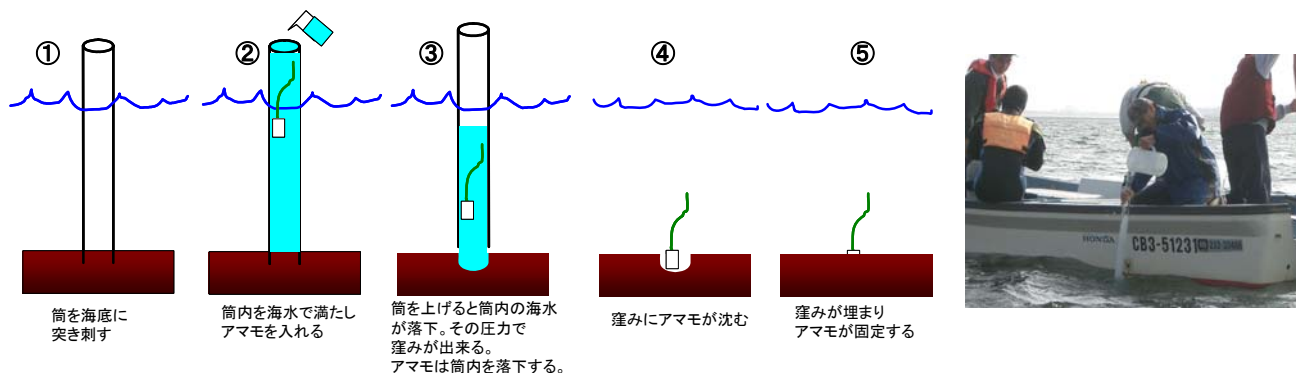


図1 移植方法の概要

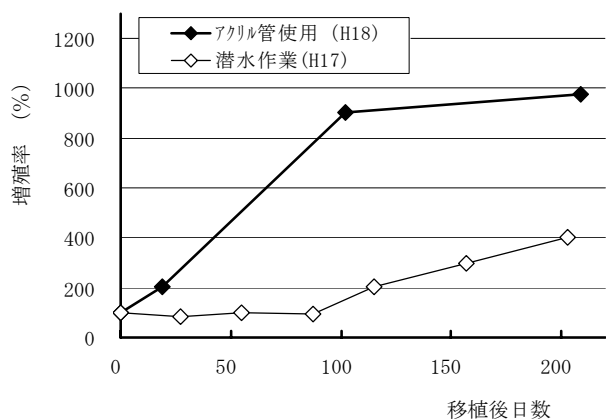


図2 移植後の増殖状況  
(10月移植, 潜水作業との比較)

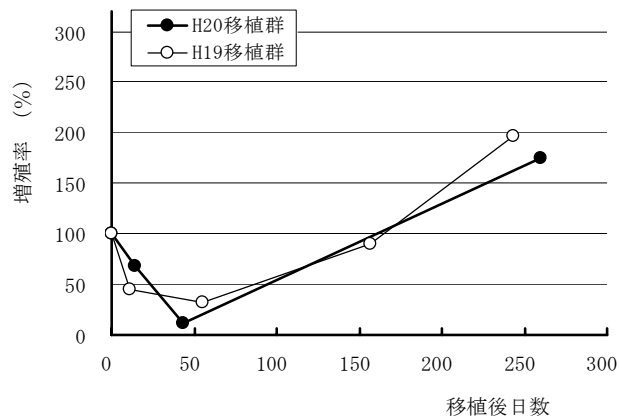


図3 移植後の増殖状況 (11月移植)

[発表及び関連文献]

[その他]